

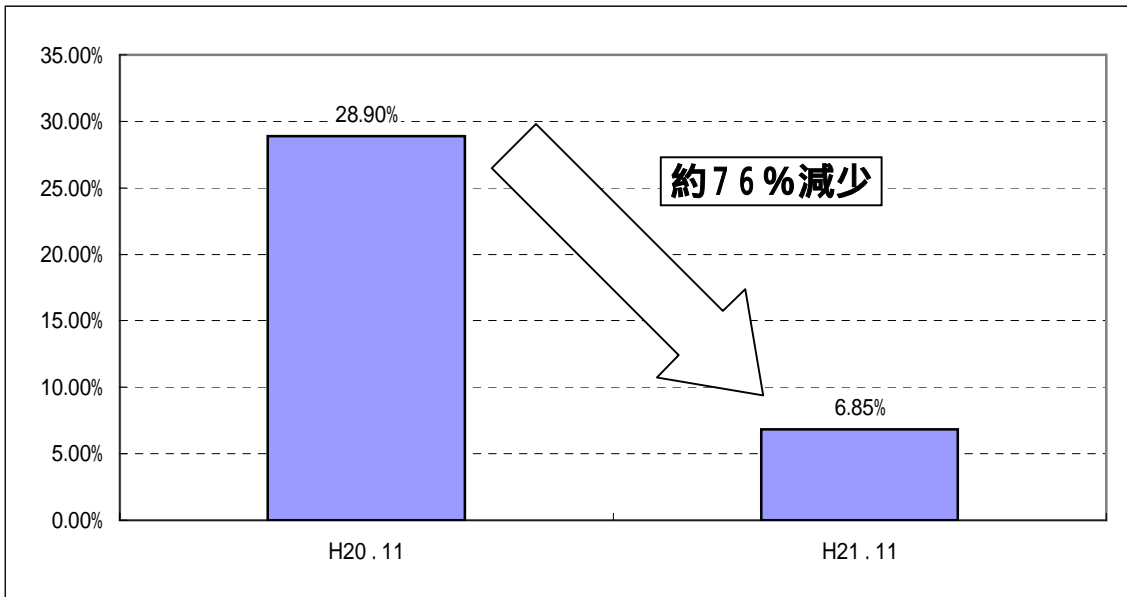
ETC開閉バーを遅らせる対策実施による速度抑制効果(参考)

データ比較期間 対策前 平成20年11月(1ヶ月間)
 対策後 平成21年11月(1ヶ月間)

対策前後でのETCレーンへの高速進入車両が約76%減少しました。又、速度低下に伴い、開閉バーへの接触率も約33%減少しました。

1. 高速車両(40km/h以上)の推移

関西国際空港連絡橋及び沖縄自動車道を除く全てのETCレーンで、開閉バーの開くタイミングを約0.5秒から約1.0秒程度に遅延した結果、速度40km/h以上の車両割合が28.9%から6.85%に約76%減少しました。



2. 開閉バーの接触件数等の推移

開閉バー接触発生件率が0.0242%から0.0162%に約33%減少しました。
 (開閉バー接触発生率 = 接触件数 ÷ 利用台数)

